

キーワードで検索

教育新聞 情報 | ログアウト

今日の教育ニ ュース 授業と学 び 学級と支 援 教員と働 き方 保護者と 地域 進路とキャ リア ICTと DX 学校 経営 教育と社 会

次期学習指導要領

働き方改革

教員不足

部活動改革

個別最適な学び

探究学習

教育ニュース・2025-10-10

「次の世代は私たち」地元町会とタッグ 課題に中学生視点で挑む

松井 聡美 教育新聞 報道記者

この記事シェアする



ポスターセッションでプレゼンする生徒たち＝撮影：松井聡美

合唱コンクール指導の負担軽減に 練習サポートアプリがリニューアル

【PR】

株式会社エクシング



町会を運営する次の世代は、私たち——。東京都文京区立第九中学校（窪宏孝校長、生徒329人）では今年度、総合的な学習の時間を活用し、1～3年生の縦割りグループが、学校を支える地元12町会の課題解決に挑んでいる。10月10日には町会関係者らを招き、9月までの取り組みをポスターセッションで共有する中間発表会が開かれた。

同校は5月以降、縦割りグループで地元町会の課題を解決する「12町会アントレプレナーシップ」を展開してきた。窪校長は「本校の学区は町会がしっかりと残る地域。町会と生徒が組んで課題解決に臨むことは、公立校が地域に存在する意義を考える上でも重要だ」と強調する。

5月にはスタートアッププログラムとして、生徒と町会役員、協力企業担当者との顔合わせを実施。6月は町会調べやホームページ作成のアイデア出し、7月には再び対話会を持った。生徒たちはその後も地域のイベントに積極的に参加するなど、「調べる」「見る・訪ねる」「参加する」ことで学びを深めてきた。

特に2年生は、総合的な学習の時間に加え、技術科の時間も活用し、各町会のウェブサイト作成にも取り組んでいる。中高生向けIT教育事業のライフイズテックが全面協力しており、中間発表では現段階のトップページなどが披露された。各町会のサイトは、最終的に同校ホームページ上で公開される予定だ。

ポスターセッションでは、夏休みから9月にかけて各町会でのラジオ体操や祭り、清掃活動などに参加したことでの気づきなどが共有された。

生徒たちは、高齢化と参加者の減少という町会共通の課題を肌で感じたという。活動を通じ、「子どもを呼べるイベントを用意してもいいかも」「私たちが参加することで、活動の活性化につながる」「小さい子は参加しているが、中高生が少ない」など、具体的な気づきを得た。

加えて、生徒からは「私たち世代の誰かが参加すれば、影響を受けて参加する人もいるのでは」「今作っているホームページで若い人たちにも魅力を知ってほしい」といったアイデアも披露された。

町会側からは、中学生との活動について「活気が出ると、町会のみんなも喜んでいた」「町会のことを分かってくれる、それだけでもうれしい」と喜びの声が上

がった。ある町会役員は「中学生がやりたいことを言ってくれたら、予算も取りたいと思っている。私たちも新しいことにチャレンジしてみたい」と話し、この活動を機に町会に入会した家庭もあるなど、今後の展開への期待が高まっている。



優れた起業家が持つ共通の力について講演した山本特命教授＝撮影：松井聡美

発表を見守った大正大学の山本繁特命教授は、優れた起業家が持つ3つの力として▽レジリエンス力▽人間に対する洞察力▽資源発見・活用能力——を紹介。

「例えば今回の取り組みで、初めて地域に飛び込み、ポスターセッションで発表するのは、レジリエンスを高める。また、異質な他者と交わることで、洞察力も高まる」と説明した。

さらに「学力も大事だが、それにアントレプレナーシップもあれば鬼に金棒だ。社会で活躍する人はその両方を兼ね備えている」と活動の価値を評価し、生徒らにエールを送った。

生徒らは3月の成果発表会に向け、今後も地域課題の解決に取り組む。窪校長は「生徒たちには、『12町会の輪の中に、自分がいるか?』を常に意識して取り組んでほしい」と語る。

この記事シェアする

広告



授業と学び



教育ニュース・2025-10-10

10～18歳の男女の5.4%「予期せぬ妊娠」経験 民間調査

10～18歳の5.4%が「予期せぬ妊娠」を経験しており、中学校までに避妊の方法を教わった10代男女は34.5%にとどまる――。そうした実態が10月9日、青少年の性にまつわる課題に取り組む(一社)「ソウレッジ」の調査で明らかになった。



教育ニュース・2025-10-10

運動会で車イスリレー インクルーシブを学ぶきっかけに

秋は運動会の季節。定番から一風変わったものまでさまざまな種目が考えられる中で、インクルーシブについて考えることのできるリレー種目が注目されている。日本財団パラスポーツサポートセンター(パラサポ)が推進する、車イスリレーだ。



教育ニュース・2025-10-10

多様性の包摂を実現する 世界が目にするUDLな学習アプリ

ICTを活用した個別最適な学びが広がる中で、「トドさんすう」をはじめとする家庭学習アプリ「トドシリーズ」が世界から注目を浴びている。当初は知的障害のある子どものために開発されたが、現在ではユニバーサルな教材として、個々の子どもの学習上の壁を取り除くツールとなっている。

広告



海外



海外・2025-10-10

「スマホ全面禁止」で生徒の学習姿勢と生活が変化 米国

スマートフォンは便利である一方、使い方によっては弊害をもたらす。国内でもこうした問題に対処するための試みが行われているが、米国ではどうだろうか。



海外・2025-10-06

第10回 「してはならない」から始まるデジタル・ガイドライン

今年9月8日、フランス国民教育省から興味深い発信があった。タイトルは「画面と共に成長する（Bien grandir avec les écrans）」。乳幼児期から成人年齢の18歳まで、子どもと「画面（les écrans）」の関係がどのようにあるべきかを、国として示したガイドラインだ。



海外・2025-10-03

カンボジアで急拡大する職業訓練 国境紛争が加えた新たな意義

「150万人の若者に無償の職業訓練を」というスローガンのもと、カンボジア政府は2030年までの高中所得国入りを目指している。経済成長を支える人材を育成するため、大幅に拡大しているのが職業訓練だ。

オピニオン



オピニオン・2025-10-09

「どこか幼い」子どもたちには、本当の旅をさせよう (喜名朝博)

「どこか幼い学生が増えてきている」という記事を読んで、大いに納得した。これまで子どもたちに対しても感じてきたことだ。素直で従順な子どもが増えたが、何か物足りない。社会全体で精神的自立が遅くなっているようにも見える。この感覚はコロナ禍前からあり、コロナ禍の体験不足や人との関わり不足だけではないはずだ。子どもたちを「幼く」してきたのは何だろうか。



オピニオン・2025-10-07

国際比較調査から見る、日本の教育の重大問題 (妹尾昌俊)

OECDのTALIS2024によると、他の調査国と比べて、日本の先生たちの1週間の仕事時間が最長であることが分かった。同時にこの調査は、日常的な指導実践でどのような工夫などを行っているかなども調べている。仕事時間の長さだけでなく、仕事の質にも注目する必要がある。今回の調査を、仕事時間が長い、多少短くなったうんぬんだけの話にとどめるのは、もったいない。



オピニオン・2025-10-02

教員による保護者への対応 スキルアップが急務だ (藤川大祐)

本紙特集「なぜ苦しい？保護者対応」で、保護者対応についての読者アンケートの結果が報告されている。状況の深刻さを反映して、外部の代理対応を求める声が7割に上っている。しかし、教員と保護者とのコミュニケーションを良好にする努力は今後も必要であろう。現状では、教員が対応のスキルを向上させる仕組みがほとんどない。教員研修や教員養成段階での取り組みが強く求められる。

先を生きる



先を生きる・2025-04-21

【チェンジメーカーを育てる】地方の私立高校から教育を変える

伝統的なカトリック系ミッションスクールだった宇都宮海星女子学院中学・高校は、2023年度に星の杜中学・高校として生まれ変わった。世界10都市以上で海外留学を経験できる制度の導入など積極的にグローバル教育に取り組み、入学希望者も年々増加するなど注目を集めている。また、24年度には全国の私立中学・高校12校とコンソーシアムを立ち上げ、国内留学などの連携も始めた。これらの施策を推進する小野田一樹校長に、学校改革の現状や、私学を中心としたこれからの学校教育の在り方などを聞いた。



先を生きる・2025-04-16

【チェンジメーカーを育てる】本当に社会で活躍できる人材を

北関東唯一のカトリック系ミッションスクールとして70年以上にわたり厳格な教育活動を行ってきた宇都宮海星女子学院中学・高校が、2023年4月に共学の「星の杜中学・高校」として新たに開校した。少子化の影響もあり年々減少していた生徒数も、この学校改革を機に増加に転じた。改革を推進したのが、24年度から校長を務める小野田一樹氏。民間の旅行会社で教育事業に携わってきたという小野田氏に、同校の学校改革に携わることになった経緯や、学校改革の現状、思い描く教育の将来像などを聞いた。



先を生きる・2025-04-14

【日本ならではのインクルーシブを】比較で見る日本の教育の良さ

フィンランドで10年以上、いわゆる障害のある子への支援や福祉に関して広く研究を重ねる矢田明恵さん。インタビュー後編では、同国でインクルーシブ教育の推進により増加したとされる不登校の現状や、同国との比較で見る日本の学校教育の良さと今後の展望などを聞いた。

教育新聞

© Kyoiku Shimbun All Rights Reserved.

報道コンテンツ

トップ

オピニオン

お申し込み

購読お申し込み

教育新聞に

ポリシー

利用規約

個人情報規約

コラム	ついて	報道原則
海外	学校・法人 購読プラン	電子版シス テム情報
Edubate	学割プラン	著作権
総合	ヘルプ&ガ イド	特定商取引 法に基づく 表記
教員採用試 験	使い方ガイ ド	
ランキング		
用語解説		

会社情報

会社概要

お問い合わせ

休刊日のお
知らせ

広告掲載の
ご案内

協賛企画一
覧